

★ ペンテコステ (Pentecost) とは ★

2018年 5月 25日(金)

つのぶえ 保育園 (石田)

先週の日曜日 5月20日は、世界中のキリスト教会や施設等に於いて、“教会の誕生日”としてのお祝いである『ペンテコステ(聖霊降臨日)』という記念の礼拝が行われました。2000年以上も昔、イエス・キリストとともに生きた弟子達の 厚い祈りと 固く結ばれた心と想いによって始められた働きが、今日の“教会”というかたちの 第一歩になりました。

“ペンテコステ (Pentecost)” とは、ギリシャ語で“50番目”を意味する言葉ですがこれは、イエス・キリストが復活された日“イースター”から数えて ちょうど50日目にキリストの約束が成就した出来事を覚えて定められた記念日で、『五旬節』『五旬祭』とも言われています。



神の子イエス・キリストは 33年間、人の子としての生涯を送りましたが、心無い人々の嘘や妬みなどにより罪人とされ十字架につけられ、壮絶な死を遂げられた後、3日目の朝によみがえられました。復活されたイエスさまは、10日の間、その確かな証として、十字架に打ち付けられた際の手や足に残っている大きな釘の跡や 脇腹を刺された時の槍の傷痕をそのままに、人々の目に見えるかたちで 現れ、自らの姿を通して、神様の存在と 変わらない愛を明らかにされました。復活の主に出会えた人達は それぞれに 再び イエスさまとともに生きられると信じ、希望と喜びに満ちあふれました。ところが、復活の朝から数えて40日目、イエスさまは突然、愛する弟子達を集められ『わたしは 世の終わりまでいつも永遠にあなたがたと共にいます。』との約束を残し、彼らの目の前で、輝く光とともに 真の父である天の神様のもとへ静かに 昇って行かれました。(これを昇天日といいます)

この時「わたしが天へ帰った後、代わりに必ず“助け主”が来るから 安心していなさい。助け主は あなたがたの目には見えないけれど、それぞれの心に注がれ生きて働いて下さる天の父である神の力です。」と、キリストが約束された この助け主なる神様の力こそが『聖霊』です。「すべての創造主である天の神さま」、「そのひとり子イエス・キリスト」、そして「聖霊」、これら3つは すべて神様です。それぞれに かたちは異なっていますが、“基”は同じであり、1つ(神)であるという理解から『三位一体』と表現されています。

さて、現実としては信じ難いイエスさまの“昇天”の様子を 目の当たりにした弟子達はしばらくの間、どうしたらよいのかわからず、放心状態の毎日でした。心の支えであった愛するイエスさまが いなくなってしまう深い悲しみの中で 打ちひしがれていましたが、やがて この聖霊を与えられる 激しい衝撃と大きな喜びの瞬間が間もなく訪れるのでした。それは 昇天の出来事から10日目、復活の出来事からは ちょうど 50日目のことでした。

喪失感と絶望感で途方に暮れながら 無気力に過ごしていた弟子達の身に突然 起こったその時の様子が、新約聖書の『使徒の働き 2章1-4節』で 次のように記されています。

『五旬節の日になって、みなが一つの所に集まっていた。

すると突然、天から 激しい風が吹いてくるような響きが起こり、彼らのいた家全体に響き渡った。また、炎のような分かれた舌が現われて、ひとりひとりの上にとどまった。

すると 皆が聖霊に満たされ、御霊が話させて下さる通りに他国の言葉で話し出した。』

受胎告知、処女降誕、死からの復活、昇天を始めとし、聖書に記されている イエスさまの数々の出来事は、人にとっては不可解、不可思議、人知を遥かに超える 何よりも不可能なことであることを 思われます。

しかし その場に遭遇した弟子達の心には、奇蹟的な変化が起こったと記されています。その時を境にして、まるで抜け殻だった身体には 別人のように力が漲り、まなざしは輝き、それぞれが「イエスさまは 確かに神様だった」と 復活の主イエス・キリストについて 大胆に話し始めると、喜びに満ちて讚美し合い、神様への信仰を 笑顔で語り合いました。互いに 祈り合うことで 共に力を与えられ、心熱い“同志”へと 気持ちが一転しました。神様の力（聖霊）が、助け主として 常に生きて働き、弟子達の心を励ましてくれました。どんな時もずっと 共にいて諭し導いてくださった 愛する主イエス・キリストを想い出し、皆の心は強くされ、信じることで 希望の光があふれ、生きる力へと変えられていきました。

「もし、あなたがたのうちのふたりが、どんな事でも 地上で心を一つにして祈るなら、

天におられるわたしの父は、それを かなえてくださいます。ふたりでも三人でも、

わたしの名において集まる所には、私もその中にいるからです。（マタイ18:19-20）」

と、かつて 自分達に語られたイエスさまの その約束に応えるべく、皆で心を一つにして 祈り合うようになりました。やがて皆は 個々の家から1つの所に集まり、すべてのものを 共有し 分かち合いながら、神様を讚美し 聖書の御言葉を語り合い 生活を共にしました。そして 人々に寄り添い、尽くし、祈るため、それぞれがそこから一斉に外へ出て行きました。

神様の愛を示すために 一人の人として生まれ、人には不可能な“死という暗闇”から 復活されたイエス・キリストの生涯に伴い、見つめ続け、神様の子であることを確信した 弟子達は、その事実の生き証人として 自分達が経験したすべてを 人々に語り伝えながら 歩いたのでした。彼らの信仰による大胆な言葉の数々は それを聞く者の心に 希望の光や 力を与えました。まさに それは、イエスさまの働きであり、キリスト（救世主）としての 生き方そのものでした。弟子達の力ある伝道は エルサレムに留まることなく、近隣の町や 国々までに及び、大勢の人々へと語り伝えられ、瞬く間に 全世界へと拡がって行きました。弟子達は 働きを終えては仲間の元へ戻り、集まっては祈り合い 讚美し合い 励まし合い 再び働きのために出かけて行きました。この拠点となった 祈りの場所が 教会の原点です。十字架に掛かれる前夜、最後の晩餐の前に弟子達ひとりひとりの足を洗われた姿を想い 「わたしがしたように あなたがたも互いに足を洗いなさい」と語られたキリストの優しい 御顔を心に浮かべ 互いに実践し合っていたかもしれません。揺るがない心で励まし合った 弟子達の 熱い祈りと希望があったからこそ、私達日本人を始め、世界中の国々の人々は皆、今 現在も こうして聖書を手にすることが出来ているのだと神様の深い恵みに感謝します。

つるびえ保育園のペンテコステ礼拝は 5日遅く迎えましたが、今年も 隣の成田教会に 全園児と全職員で同い、教会員の方々と共に心を合わせて祈り 讚美できましたこと心から 感謝でした。世界中の人々の心に 神様からの聖霊と愛が注がれますようお祈りいたします。